

令和 6 年度 学校評価アンケート集計結果について

山形県立米沢東高等学校 学校評価委員会

今年度のアンケートは、令和 6 年 1 2 月 2 5 日から令和 7 年 1 月 7 日まで実施した。アンケート対象者は、本校生徒全員とその保護者、教職員である。保護者の回収方法は、令和 4 年度より連絡用ツール「さくら連絡網」を利用した Google フォームでの実施とし、スマートフォン・パソコン等を利用しての入力である。スマートフォン・パソコン等で入力できない方には直接アンケート用紙をお渡しして記入していただいた。

質問は昨年度と同様とし、教育目標（全体及び各年次）を添付した。

回収率は生徒 9 3 (9 7・9 1) %、保護者 7 8 (7 3・5 9) %、教職員 7 6 (8 6・7 6) % となり、特に保護者からの回答率が年々増加している（() は R 5・R 4 年度）。

回答の選択肢に、「わからない」を加えてほしいというご意見があり検討したが、過年度との比較の必要性などをふまえ、「A:よく当てはまる」「B:だいたい当てはまる」または「C:あまり当てはまらない」「D:全く当てはまらない」の 4 択とした。

次に、本校の教育課題と学校経営について、今年度のアンケート結果から考察する。

I. 本年度の学校経営（概況）

A) 学校行事等について

- ・多くの行事や活動がコロナ禍以前に準じて実施されるようになった。i-See プロジェクトでも、主体的に地域施設と連絡をとり、インタビューやアンケートを実施する姿が見られている。しかし、施設訪問や部活動単位でのボランティア活動などはコロナ禍以前ほど実施されていない。アンケートの結果にもそれが良く現れている。（質問 9・・・35%(R5 は 36%)）
- ・夏季の学校行事では熱中症対策として、エアコン設置教室等での開催やリモート開催により対策を講じて実施した。体育館に冷風器が配置された。
- ・部活動では運動部・文化部ともに大会が開催され、東北・全国大会出場等各種目で優秀な成績を収めた。
- ・修学旅行では、予定通り関西方面へ 3 泊 4 日の研修を行った。
- ・年間通して、予定通り授業時数は確保された。

B) 本校志願者を増やす工夫について （高校入学者選抜 R7 前期特色選抜 2.35 倍

R 6 本校志願者 1.02 倍 R 5 本校志願者 0.59 倍）

- ・オープンスクールは、各中学校にアンケート調査を行い多くの中学生が参加できる日程とし、8 月の暑さを考慮してエアコン設置教室を活用し、熱中症対策を講じて実施した。中学生の申込み数は過去最高であった。（3 8 0 名）（R 5 302 名）
- ・R7 前期特色選抜試の先進校の一つ(県内 3 校)であることから、中学生が不安なく出願・受検できるよう、8/1 オープンスクール、9/25 入試説明会(中学校教員対象)、9/30・10/1 入試説明会(米沢市内中学生対象)、高畠中・南陽 3 校に訪問しての入試説明会(川西中は市内向けで

参加)を実施した。中学生が参加者しやすいよう、中学校の代休日に設定した。

- ・授業公開を 10/23(AM)に実施した。
- ・昨年度より引き続き公式Instagramやフェイスブックを活用し、生徒・職員の協力を得ながら学校生活をリアルに紹介し、生徒が主体的に学校生活を送る様子が伝わるよう努めた。Instagramのフォロワー数は 3074(2/8 現在)、10 万回単位で再生回数が伸びている投稿も多く現れるようになった。肯定・否定の両面のご意見を検討しながら、今後も活用していきたい。

Ⅱ. アンケートの数値分析

1. 《学習指導》

- ① 質問内容は「家庭学習に主体的、計画的に取り組んでいるか」に対し、肯定的な意見(A+B)は(以下同様の集計)、下記が一番右の数値である。該当項目は、質問事項 8 (生徒・保護者)・11 (教職員)である。

生徒： 72%(R02) → 74%(R03) → 70%(R04) → 77%(R05) → 70%(R06)
保護者： 70%(R01) → 73%(R02) → 73%(R03) → 72%(R04) → 66%(R06)
教職員： 86%(R01) → 97%(R02) → 97%(R03) → 92%(R04) → 97%(R06)
年次別に見ると 1 年次生 56% (保護者 62%)、2 年次生 76% (保護者 67%)、3 年次生 85% (保護者 71%) である。

1 年次生は、「主体的」な学習活動とするために基礎力の定着を意識づけし、授業の予習復習・課題への地道な取り組みが期待される。2 年次生は今年度は 75% を上回る結果となった。文理の科目選択での興味関心を引き上げ、より「主体的」になる取り組みが期待される。3 年次生では進路実現に向けて計画的に取り組んでおり、受験生らしい数値となっている。

「課題の分量・内容は適切である」とする教員は 97% である。多くの生徒は期日を守って課題を提出しており、生徒の頑張りが見られる。「課題」については、授業内容を定着させるために必要な学習量である。家庭学習に主体性がないと感じる 3 割の生徒を上手く導き、高校生活の限られた 3 年間で実力を身につけさせる必要性を感じる。

- ② 本校独自の取り組みの質問項目として、質問事項 7 (生徒)・13 (教職員)「i-See プロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる」に対する回答では、生徒の高い意識が数値に現れている。

生徒： 94%(R02) → 94%(R03) → 93%(R04) → 95%(R05) → 92%(R06)
教職員： 81%(R02) → 88%(R03) → 95%(R04) → 89%(R05) → 75%(R06)

3 年次の課題研究発表会 (ポスターセッション) には外部有識者や保護者にも参観して頂き、好評であった。年次別に見ると 1 年次生 89% (99%(R05))、2 年次生 94% (92%(R05))、3 年次生 94% (94%(R05)) であり、全体的に高い意識での取り組みが継続し、3 年間を見通した更に充実した深い探究活動が期待できる。大学等の入試の多様化に伴い、探究内容は面接やエントリーシートでも活用されることがますます多くなっている。教職員は専門分野を担当するとは限らないため、指導方法の難しさを感じながらも、一人一台端末の活用で円滑に指導できた。進路指導課では、指導方法について「指導の手引き」など用意し、全教員が指導しやすい工夫をしている。将来、グローバルで未解決の現代的課題に果敢に挑む態度を育てるために冊子「現代を知る」の購読も全学年で継続して行った。

2. 《生活指導》

- ① 質問事項 3「私の学校生活は充実している」の肯定的数値は、87%を超える良い数値が出ている。

生徒：85%(R02) → 84%(R03) → 83%(R04) → 87%(R05) → 87%(R06)
保護者：83%(R02) → 85%(R03) → 87%(R04) → 84%(R05) → 83%(R06)

生徒については昨年同様のよい数値で、9割近い生徒が毎日の生活が充実していると考えられる。年次別に見ると1年次生85%（保護者86%）、2年次生83%（保護者80%）、3年次生91%（保護者80%）であり、特に3年次生で高い数値となり充実感をもって卒業できることは大変喜ばしい。各種行事は生徒会執行部を中心に種目等様々な工夫を凝らし、全員が楽しめるような生徒会の企画力、生徒一人ひとりの生き生きとした行動力と積極性には目を見張るものがある。一方、「学校に行くのが楽しくない生徒」と「その子どもを心配している保護者」が各年次に約10～20%いることにも留意し、生徒・保護者・教職員の相互の意思疎通を図りながらより一層の信頼関係を深め、指導に生かしていきたい。

- ② 質問事項 17「悩みや不安を相談できる先生がいる」に関しては、

生徒：74%(R02) → 71%(R03) → 80%(R04) → 79%(R05) → 79%(R06)
保護者：79%(R02) → 72%(R03) → 75%(R04) → 72%(R05) → 72%(R06)

年次別に見ると1年次生72%（保護者71%）、2年次生80%（保護者76%）、3年次生89%（保護者69%）である。

修誠会（PTA）の補助もあり、スクールカウンセラーには今年度も年間22回、月2回の割合で来ていただいて、希望者は誰でも相談できるようにしている。

教職員の27「生徒から悩みや不安の相談を受けた時、親身になって対応している」に対する回答では100%となっており、生徒の「悩みや不安（心配なこと）があるとき相談できる先生がいる」の数値が80%に近く、相談しやすい環境に改善されている。しかし、教職員とは受け取り方に差があるため、今後より一層生徒に目を配り、相談しやすい体制づくりに万全を期したい。

- ③ 質問項目 生徒9・教職員32「社会や地域に貢献する活動に、積極的に参加している」については、生徒の肯定的な数値が今年度も上がり、教職員と生徒の間に顕著な開きがある。

生徒：32%(R02) → 35%(R03) → 32%(R04) → 36%(R05) → 35%(R06)
教職員：90%(R02) → 82%(R03) → 84%(R04) → 81%(R05) → 91%(R06)

今年度、食物部のフードドライブの取り組みが表彰され、高い評価をいただいた。生徒は学習・部活動などで時間に追われているが、そのような多忙な時間の中でも、社会貢献活動を快く引き受け、ボランティア活動を厭わない生徒を積極的に讃え、部活動単位でのボランティア活動などにも取り組んでいきたい。雪灯籠製作や地域の祭りやコミセンの行事などにも協力しているが、雪上カルタ大会のように生徒には地域活動として意識されていない場合もある。また、生徒の設問にはボランティアと明記されている点や年数回の活動に対して「積極的に参加している」とは言えないと判断したことも回答の差の一因と思われる。

3. 《進路指導》

- ① 「進路決定のための情報が提供されている」の質問 11 は、

生 徒： 9 7 % (R02) → 9 4 % (R03) → 9 5 % (R04) → 9 5 % (R05) → 9 4 % (R06)
保護者： 7 8 % (R02) → 7 4 % (R03) → 7 4 % (R04) → 7 6 % (R05) → 7 3 % (R06)

生徒には「情報提供がなされている」という高い評価を得ているが、保護者の受け止め方とはやや開きがある。

保護者質問の 12「進路講演会や進路相談が適切に行われている」では、全体で 8 4 %の方が適切であると回答している。情報提供は生徒を介したプリント配布、「さくら連絡網」の活用等で保護者にも伝えられるようになっているが、より具体的な資料や情報を求める傾向もあり、一層の工夫が必要である。

② 「進路相談が適切に行われている」の質問 12・教職員 23 は、

生 徒： 9 8 % (R02) → 9 6 % (R03) → 9 8 % (R04) → 9 6 % (R05) → 9 7 % (R06)
保護者： 7 9 % (R02) → 7 7 % (R03) → 8 1 % (R04) → 8 5 % (R05) → 8 4 % (R06)
教職員： 1 0 0 % (R02) → 1 0 0 % (R03) → 9 2 % (R04) → 9 7 % (R05) → 1 0 0 % (R06)

生徒・保護者とも高い評価を得ている。朝会前や昼休みに時間を取り、生徒面談をしている教職員もいる。多忙な校務の中、進路課や各年次団の努力の跡が伺える。

教職員の意識において、質問項目 23「生徒・保護者に対して入試制度の理解と進路達成のために必要な情報提供と適切な助言が行われている」についても 100%だった。今後も生徒と保護者の進路に関する相談要求は常に高いことを意識していかなければならない。

4. <総務・教育環境>

質問項目 「災害・事故等の非常時の備えや行動について」の質問には、

22「学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとれば良いか具体的に知らされている」

生 徒： 9 7 % (R02) → 9 6 % (R03) → 9 9 % (R04) → 9 5 % (R05) → 9 6 % (R06)

22「災害・事故などに迅速に対応し、非常時の備えに努めている」

保護者： 9 0 % (R02) → 8 8 % (R03) → 9 1 % (R04) → 8 9 % (R05) → 9 1 % (R06)

33「災害・事故・事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている」

教職員： 9 5 % (R02) → 9 1 % (R03) → 9 7 % (R04) → 9 2 % (R05) → 9 4 % (R06)

35「施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている」

教職員： 100% (R02) → 9 7 % (R03) → 9 7 % (R04) → 9 5 % (R05) → 9 7 % (R06)

結果は非常に高い数値を示し、安全についての意識も高いといえる。生徒・保護者・教職員の危機管理意識は高いまま保つことができています。年 2 回の避難訓練の中で、今年度は消火器訓練に加え放水訓練を実施した。生徒の日常で生活体験が減っている昨今、こうした実訓練を今後も重視したい。

生徒 23「Google クラスルーム」の授業・その他での活用について

「役立っている」と回答した生徒は 9 8 %で、年次別に見ると 1 年次生 9 7 %、2 年次生 9 6 %、3 年次生 1 0 0 %である。

教職員 37「グループウェア・Google クラスルーム・さくら連絡網を有効に活用している」94%

設備に関しては、Wi-Fi 環境・一人一台端末・iPad・スマホなどが全教室で使える環境下で、リモートでの授業もできるように整備されている。スマホに関する使用条件を緩和したことから、利用に関するメディアリテラシーの向上が一層重要となっている。

授業や校務において Google for Education の活用はほぼ必須となっている。今年度は ICT

教育推進重点校として教育センターの指導の下、年４回の研修を実施した。今後の授業に活かされていくことが期待される。

生徒 24・保護者 24 質問項目「さくら連絡網」の活用について

「役立っている」と回答した生徒は 72%（保護者 97%）で、年次別に見ると 1 年次生 70%（保護者 99%）、2 年次生 57%（保護者 98%）、3 年次生 86%（保護者 92%）である。

教職員は出欠確認が簡略化され電話対応による業務が軽減された。メール機能によりクラス・個人単位での連絡が可能であり、分掌や事務部からの発信方法としても活用されている。

また、今年度から働き方改革のひとつとして、時間外の電話対応を留守番電話のメッセージ案内に切り替えさせていただいている。さくら連絡網は生徒・保護者と学校間の緊急連絡手段としての役割を果たしている。

5 <教職員に対するアンケートについて>

高い数値の微動で大きな変化が見られない中で評価の低い項目は、

質問項目 36「学校の SNS(Instagram・Facebook・ホームページをよく閲覧する)」は 59%（65%(R05)）である。それに比して

質問項目 37「グループウェア、Google Classroom・さくら連絡網を活用している」は 94%と非常に高い数値である。

校務の ICT 化が段階的に進んだことにより、情報ツールが多岐にわたり煩雑になっていることもこうした対比の一因と考えられる。Wifi 環境が整ったとはいえ、通信速度の改善や機器の更新が追い付いていない状況も否めない。国や県をあげてのさらなる DX 化を期待したい。

質問項目 教職員 34「施設・設備の拡充」 75%（78%(R05)）

については、南校舎・体育館が老朽化しており、窓の開閉・カーテンの開閉・雨漏り・タイルの剥がれなど、トラブルが発生している。緊急性の高いものについては予算がつき改修済みであるが、東校舎についても老朽化が見られ修繕箇所の要望が多くなっている。そのような中、体育館フロアのワックスがけは生徒にとっても良い改善であった。

老朽化した校舎の修理に関しては「県立高校再編整備基本計画」のこともあり、予算化はなかなか困難な状況である。毎月の安全点検を活かし、安全な学習環境の保全に努力を続けたい。

酷暑対策（熱中症対策）のための冷房機械の設置については、新たに情報準備室に設置した。体育館への簡易式移動クーラーが設置（県設置）され、徐々に改善されている。しかし、実習教室等設置されていない教室も多く、設置に向けて県への継続した要望を行い計画的に進めていきたい。トイレの洋式化についても、要望を続けている。